

論	文
---	---

I C F モデルとアセスメントの一考察

A Study on ICF Model and the Assessment

井 上 理 絵

石 橋 郁 子

松 居 紀久子

西 井 啓 子

INOUE Rie,

ISHIBASHI Ikuko

MATSUI Kikuko and NISHII Keiko

I. はじめに

介護過程は、介護上の課題（ニーズ）を専門的かつ科学的な方法によって明確にし、解決するための方法を計画、実施、評価するための一連の思考過程である。第1段階のアセスメントの目的は、情報の収集、情報の解釈・関連づけ・統合化により介護上の課題（ニーズ）を明確にすることであるが、学生にとっては最も難しいところである。

介護保険制度における介護サービス計画では、MDS－HC方式、三団体ケアプラン策定研究会方式、日本訪問看護振興財団方式、全国社会福祉協議会方式など様々なアセスメントツールが使用されている。一方で、介護福祉士養成教育課程で使用しているテキストは、ICFの視点によるアセスメントが推奨されているが、「アセスメント」の内容は多様であり、情報の解釈・関連づけ・統合化のプロセスを経て介護上の課題が明確に示されている教材が少ない。

そこで本研究は、学生が介護計画実習で行ったアセスメントを分析し、その現状と課題を明らかにして、今後の教育指導に役立てることを目的とする。

II. 研究方法

期 間：平成26年6月から8月

分析対象：本学2年生の介護計画実習で評価項目「利用者理解」と「記録」において施設側評価がいずれも「良くてできる」と判断された7名の学生の介護計画記録（「情報収集シート」D表1～3（表1～3）、「アセスメントシート」E-1表（表4）E-2表（表4））

分析方法：学生がとりあげた介護上の課題（ニーズ）が適切かどうかは、本研究から除外する。

- ① 明確になった介護上の課題に対応して、教員が学生のE表1の情報の解釈・分析・統合の記録からICFモデルに従い、内容を転記する。（青字）

- ② 要素間の関連については、矢印の実線で表記する。「活動」は「している活動」「できる活動」（「している活動」を㊶、「できる活動」を㊷と表示した。）の2つに分け、「健康状態」「心身機能・身体構造」「参加」「環境因子」「個人因子」の7つの項目に1つでも関連情報が記入されている場合は1点とし、書き込まれていない場合は0点とする。満点は7点、最低点は0点とする。教員4人で分担し、その後調整を図る。
- ③ E表1で情報の解釈・分析・統合がされていないが、D表1では記入されている場合は、教員が黒字で転記する。
- ④ 介護上の課題がより明確になるためには、さらにどのような分析の視点が必要かを教員が記入する。

Ⅲ. 倫理的配慮

対象学生に、研究の趣旨や個人が特定されないように統計処理を行うこと、また成績には一切関連しないことを説明し、同意を得た。また、実習先や利用者を特定できないように配慮した。

Ⅳ. 結果

学生7名をそれぞれA～Gの記号で表記した。一人の学生が2つの介護上の課題（以下課題と略す）を取り上げているが、①から⑭までの通し番号を付した。（例A学生－課題①）なお、図中のICFの構成要素は省略した。

1. 課題の個別的分析結果

1) 課題①（A学生）

「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、6点とした。課題①をより明確にするには、「心身機能・身体構造」における視力やトイレ以外の場所の認識能力、頻尿の原因、また「環境因子」のトイレの位置や表示形式、自室やフロアーとの位置関係に関する分析が必要である。

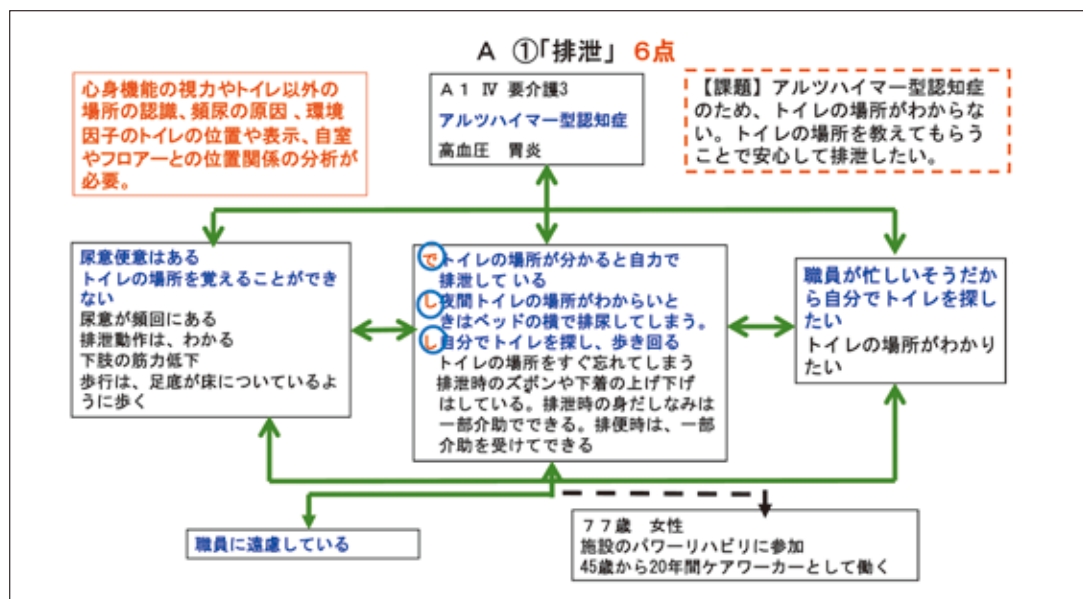


図1 課題① (A学生)

2) 課題② (A学生)

「健康状態」「心身機能・身体構造」「できる活動」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、4点とした。課題②をより明確にするには、視力低下に伴う「活動」の変化や、「参加」の中で一番持続したいこと、「健康状態」と転倒のリスクに関する分析が必要である。

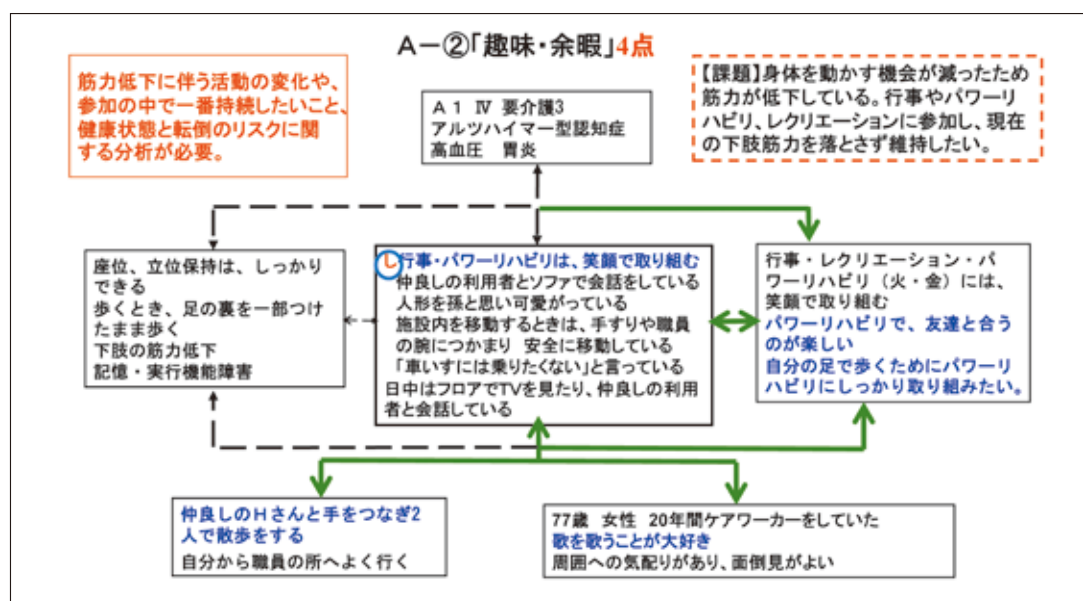


図2 課題②

3) 課題③ (B学生)

「健康状態」「心身機能・身体構造」「できる活動」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、5点とした。課題③をより明確にするには、短下肢装具の装着方法が職員間で統一されてない要因や、右下肢の状態、上肢や視力の機能、装着を正確にした場合との違いの分析が必要である。

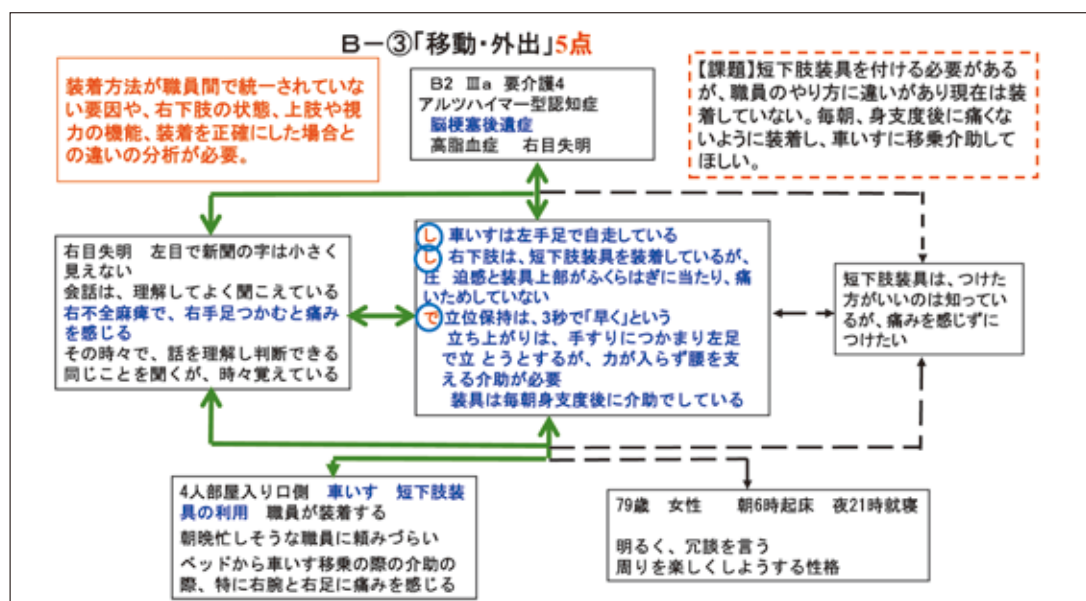


図3 課題③（B学生）

4) 課題④（B学生）

「できる活動」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、6点とした。課題④をより明確にするには、「環境因子」からスプーンの形状や、「している活動」または「できる活動」の食べ物をすくってから口に運ぶ過程、全量が残る要因についての分析が必要である。

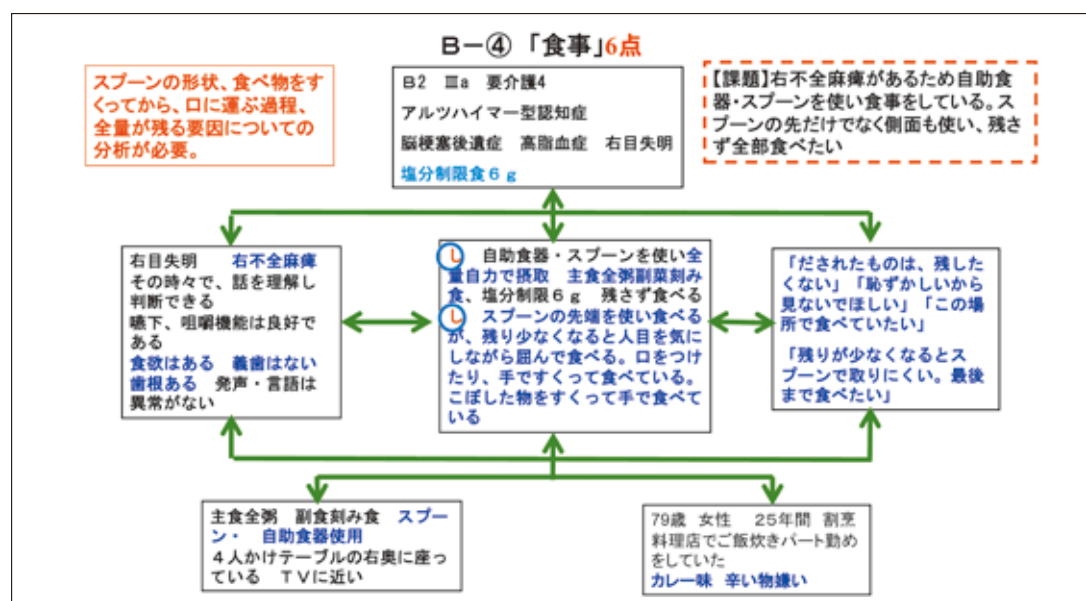


図4 課題④（B学生）

5) 課題⑤（C学生）

「健康状態」「できる活動」「環境因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、4点とした。課題⑤をより明確にするには、見えないことが原因で不安・恐怖心があるのか、以前の経験等からの不安・恐怖心が影響しているのか等、「心身機能・身体構造」「個人因子」との関連を分析する必要がある。

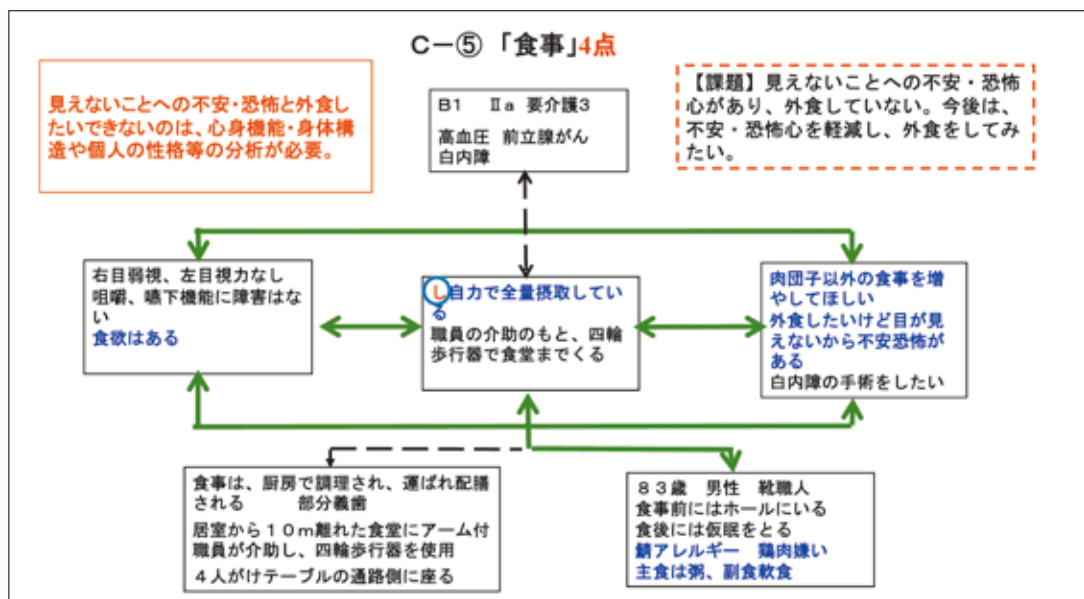


図5 課題⑤ (C学生)

6) 課題⑥ (C学生)

「健康状態」「できる活動」「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないため、4点とした。課題⑥をより明確にするには、「環境因子」であるテーブルの座席の配置理由やデイサービスで会話する利用者の情報、趣味・価値観、また「個人因子」の利用者の趣味・価値観等についての情報収集と分析が必要である。

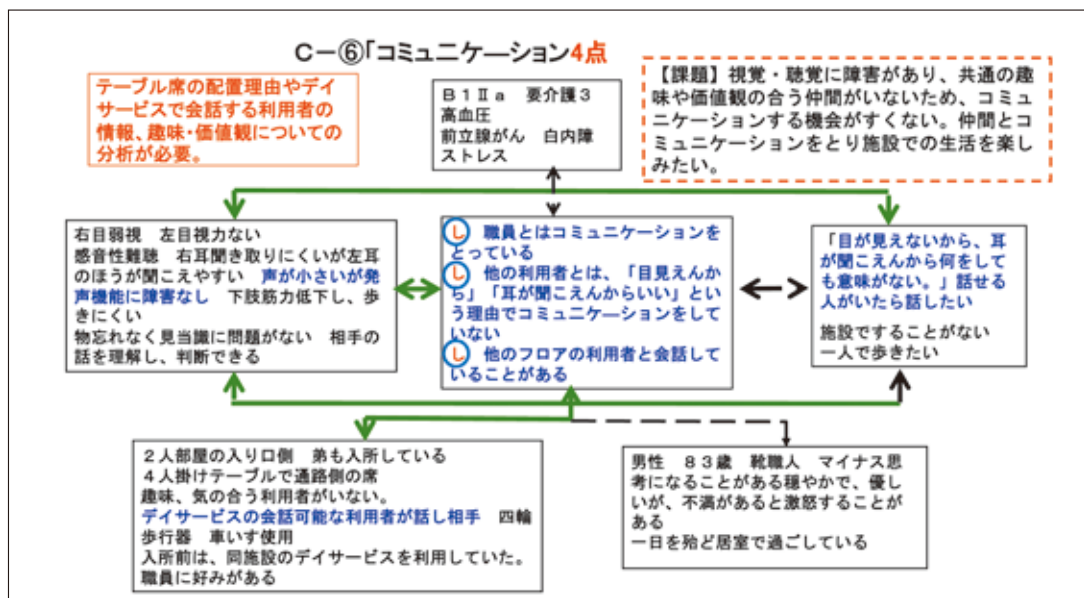


図6 課題⑥ (C学生)

7) 課題⑦ (D学生)

「健康状態」「心身機能・身体構造」「参加」「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので、3点とした。課題⑦をより明確にするには、「心身機能・身体構造」面の認知機能や身体機能から皮下出血の原因をさぐり、また「環境因

子」から危険箇所がどこにあるのかを具体的に示すことができるような情報収集と分析が必要である。

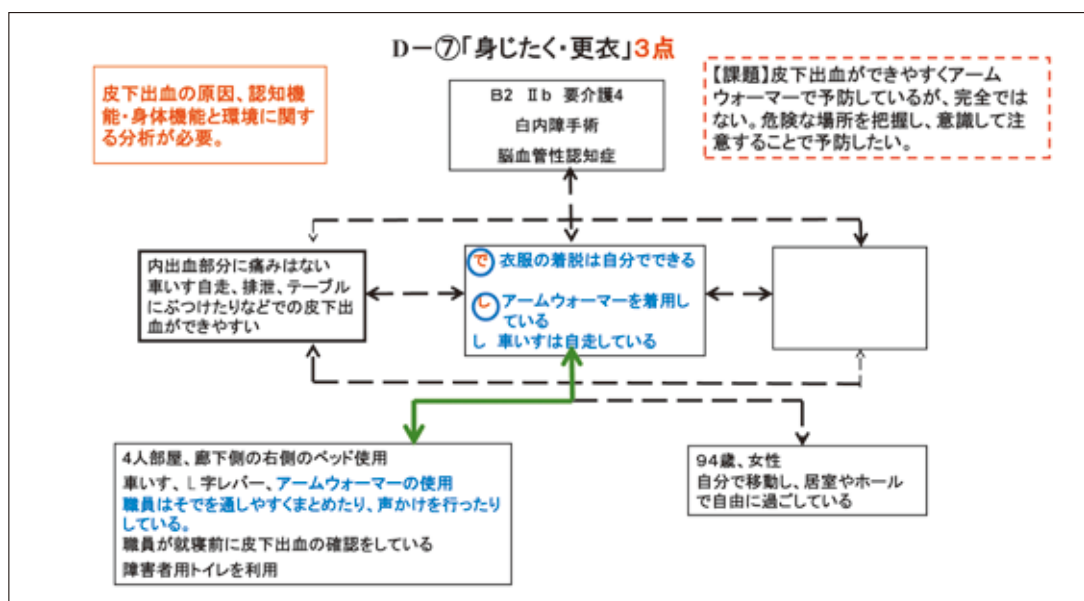


図7 課題⑦（D学生）

8) 課題⑧（D学生）

「できる活動」「参加」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので、5点とした。課題⑧をより明確にするには、「環境因子」の虫めがねの度数や掛け具合や新聞・本などの施設環境や他の利用者との関わりに関する視点、また「個人因子」の好みについて偏りはないかなどの情報収集と分析が必要である。

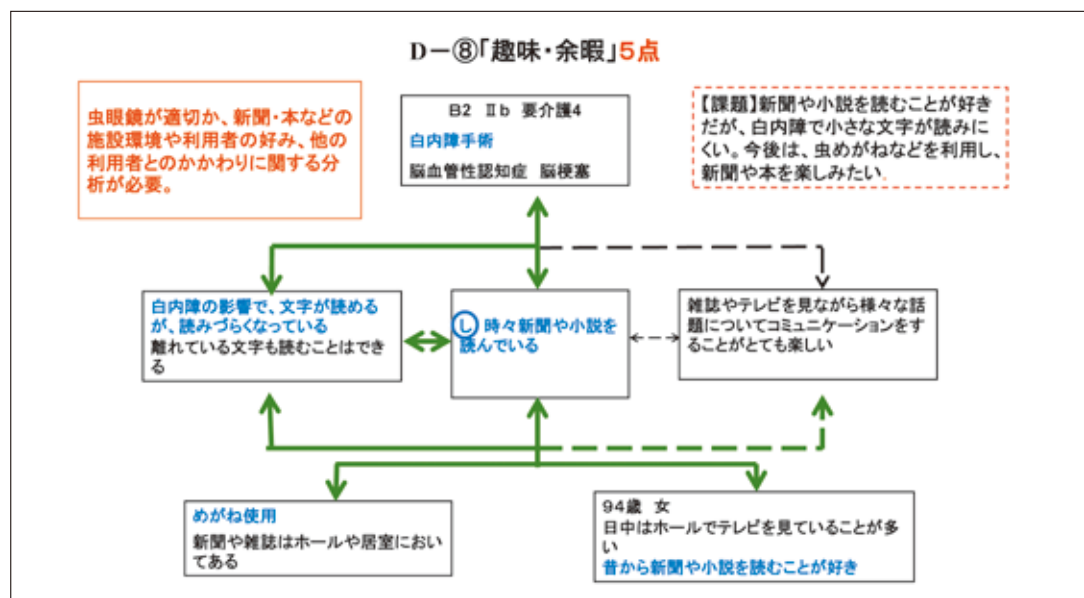


図8 課題⑧（D学生）

9) 課題⑨（E学生）

「健康状態」「できる活動」「参加」「環境因子」「個人因子」に関する情報を活用した

アセスメントをしていないので、2点とした。課題⑨をより明確にするには、「心身機能・身体構造」視点の右手の機能障害の状況や「できる活動」また、食べこぼす量や摂取量、「環境因子」であるスプーンや食器についての情報収集と分析が必要である。

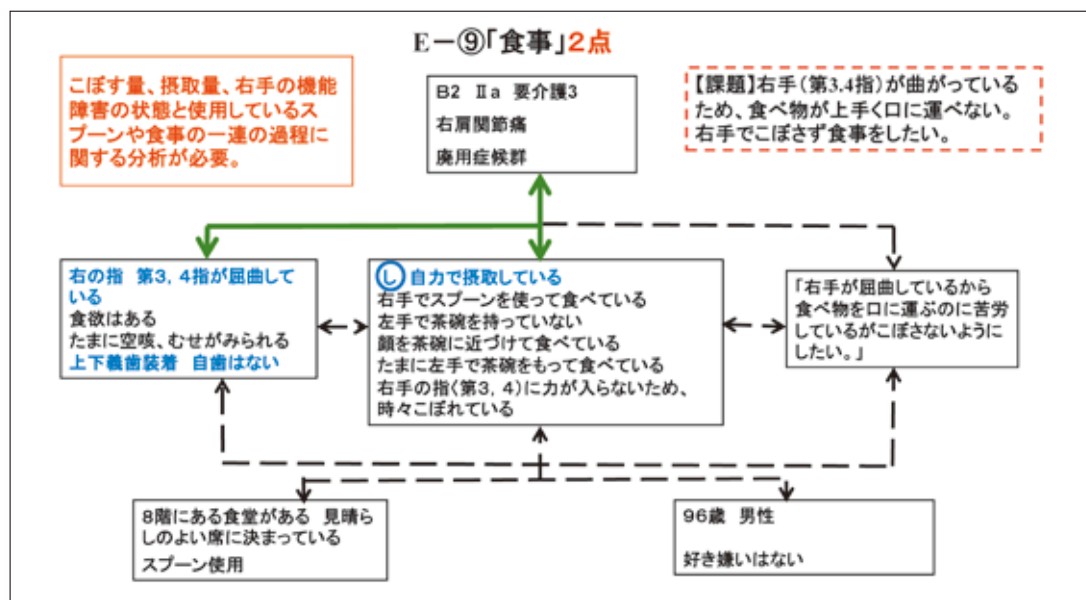


図9 課題⑨ (E学生)

10) E学生の課題⑩

「健康状態」「心身機能・身体構造」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので5点とした。課題⑩をより明確にするには、「個人因子」視点である趣味やどの職員といつ交流を重ねているのかなど、具体的な分析が必要である。

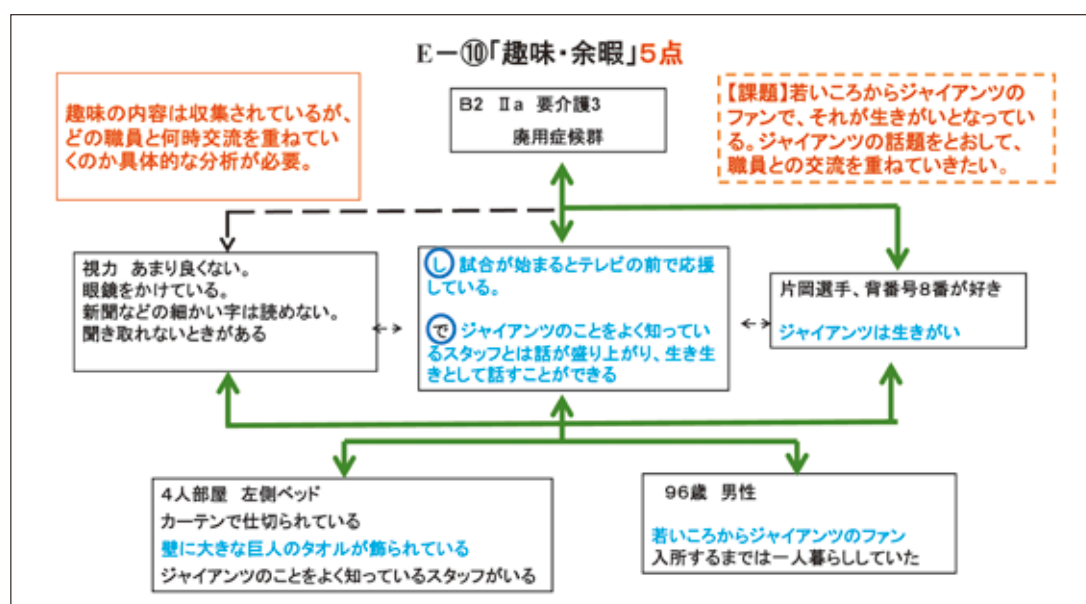


図10 課題⑩ (E学生)

11) 課題⑪ (F 学生)

「できる活動」「環境因子」「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので3点とした。課題⑪をより明確にするには、「心身機能・身体構造」の面で利用者の糖尿病の理解度や「環境因子」から食事の量や内容、満足度の高い食事にするための分析が必要である。

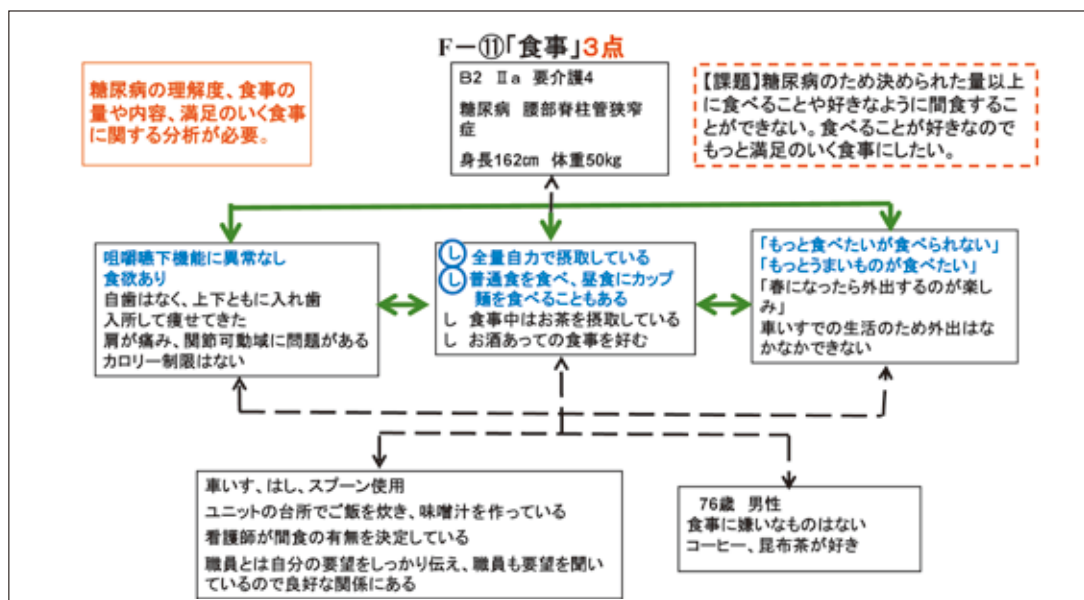


図11 課題⑪ (F 学生)

12) 課題⑫ (F 学生)

「健康状態」「心身機能・身体構造」「できる活動」「参加」「環境因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので2点とした。課題⑫をより明確にするには、入眠障害か、中途覚醒か、物音の原因や時間、環境の現状の分析が必要である。

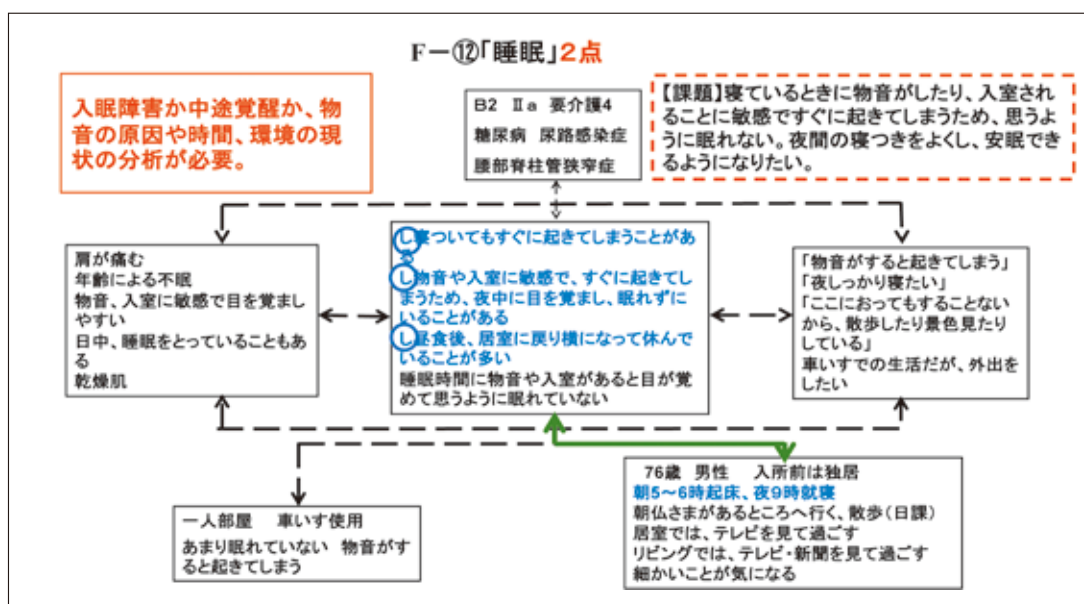


図12 課題⑫ (F 学生)

13) 課題⑬ (G学生)

「健康状態」「環境因子」「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので4点とした。課題⑬をより明確にするには、構音障害の原因、口腔機能訓練との関連、難聴との関係性に関する分析が必要である。

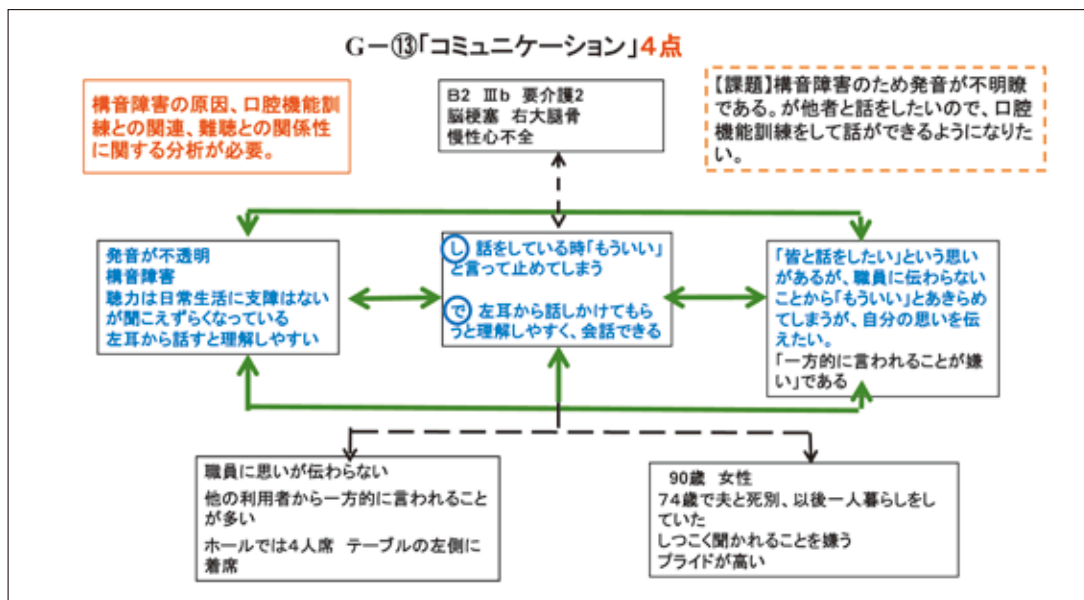


図13 課題⑬ (G学生)

14) 課題⑭ (G学生)

「健康状態」「心身機能・身体構造」「個人因子」に関する情報を活用したアセスメントをしていないので、4点とした。課題⑭をより明確にするには、車いすの自走に関する具体的な能力、介助が必要な状況や外出の意義についての分析が必要である。

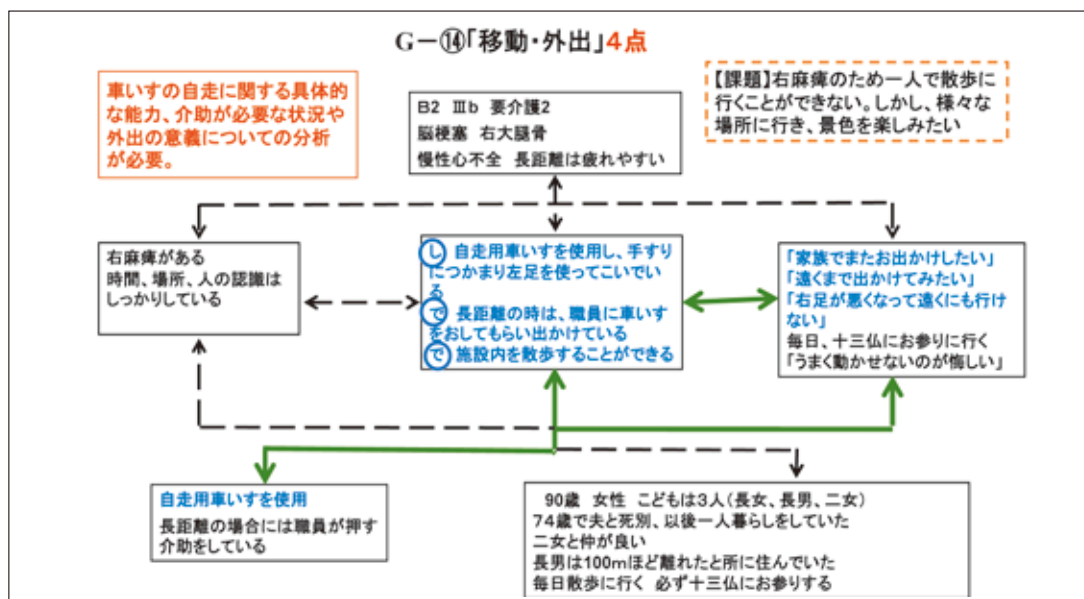


図14 課題⑭ (G学生)

2. 課題のアセスメントに関する全体評価

14の課題がICFモデルを活用してアセスメントされているかどうか、要素間の関連が行われているかを、評価したものが表1である。

学生別にみると、7点が満点であるが、最高は6点の2名、最低は2点の2名、平均は4.07点であった。低得点の学生は、2つの課題ともに低い傾向にあり、高得点にある学生は、2つの課題ともに高い傾向がうかがえる。

課題（ニーズ）を生じている構成要素と要素間の関連を分析しているかどうかについては、高い順に、活動の「している活動」が14点（100%）、次いで、「身体構造・心身機能」、「参加」、「環境因子」が9点（64.3%）、そのあとに「個人因子」が7点（50%）「できる活動」は6点（42.9%）であった。「健康状態」が3点（21.4%）で一番低い結果となった。

表1 課題のアセスメントに関する全体評価 (n = 14)

学生	ニーズ 番 号	活動項目	分析の視点							合計
			ニーズを生じている構成要素と要素間の関連							
			健康 状態	心身 機能	活 動		参加	環境 因子	個人 因子	
している	できる									
A	①	排 泄	1	1	1	1	1	1	0	6
	②	趣味・余暇	0	0	1	0	1	1	1	4
B	③	移動・外出	0	1	1	1	0	1	1	5
	④	食 事	1	1	1	0	1	1	1	6
C	⑤	食 事	0	1	1	0	1	0	1	4
	⑥	コミュニケーション	0	1	1	0	1	1	0	4
D	⑦	身じたく・更衣	0	0	1	1	0	1	0	3
	⑧	趣味・余暇	1	1	1	0	0	1	1	5
E	⑨	食 事	0	1	1	0	0	0	0	2
	⑩	趣味・余暇	0	0	1	1	1	1	1	5
F	⑪	食 事	0	1	1	0	1	0	0	3
	⑫	睡 眠	0	0	1	0	0	0	1	2
G	⑬	コミュニケーション	0	1	1	1	1	0	0	4
	⑭	移動・外出	0	0	1	1	1	1	0	4
合 計			3	9	14	6	9	9	7	57

V. 考察

本研究の目的は、学生が介護計画実習で行ったアセスメントの結果を分析し、その現状と課題を明らかにすることである。

14の課題がICFモデルを活用してアセスメントされているかどうか、要素間の関連も行われているかについては、満点（7点）はなく、最高は6点の2名、最低は2点で2名、平均は4.07点であった。今回は、あくまでも記録用紙E・F表に記述されている内容

から判断し得点を入れた。しかし、情報収集の用紙である記録用紙D1～3表を精査したところ、D学生の課題⑦「参加」以外は、7つの構成要素に関する情報を収集し記述していることが判明した。このことから、学生はアセスメントに必要な情報収集を确实に行っていることがわかった。情報収集をしているにも関わらず、情報の解釈・分析・統合に生かされていないのは、収集した情報をICFモデルに転換する思考過程ができていないからではないだろうか。利用者の状態を全体的にしかも統合してとらえるためには、収集した情報を関連づける思考が重要となる。そのためには、情報の持つ意味を理解することも必要である。また、ICFモデルの構成要素の意味するところを確実に知識として持つておくことも重要である。

本研究では、課題の適切性については研究範囲から除外した。しかし、アセスメントが適切に行われているかどうかを判断するためには、課題の明確化が十分であるかどうかを検討する必要がある。課題別の図1～14の中に、課題に対応する形で左側に付記した内容は、課題が明確になるために必要な分析の視点である。学生が明確となった判断している課題ではあるが、不足している視点である。課題が明確になってはじめて、個別性のある介護計画となるのであるが、学生の場合の到達レベルを明確にする必要がある。

アセスメントに最も反映されなかった項目は、「健康状態」(表1)であった。課題と健康状態の関連を分析するためには、医学関連の知識が不可欠である。「介護過程」は、「他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする」ことをねらいとしている。学生は概して「こころとからだのしくみ」に関する学習が不得手である。しかし、利用者の生活を支援していくうえで、対象者の健康状態の把握は欠かせない。また、医療と介護を一体的に推進していくこれからの地域包括ケアにおいても医療職との連携を図るうえでも、重要である。医学の学習は暗記科目と錯覚されやすいが、からだやこころのしくみを立体的にイメージしやすい学習にする工夫が必要である。

本学では、情報収集においてはICFモデルを活用した情報収集シート(記録D表)を使用しているが、アセスメントを行う際には、従来の様式を使用している。学生は、アセスメントでICFモデルを活用することの指導を受けていても実際の情報の解釈・分析・統合をする場合には、様式が違うことから、学習したICFの視点を活用することができなかったことも考えられる。今後は、構成要素間が見えやすいもの、思考過程が整理しやすいものなど、現在使用している各種の介護計画に関する様式をICFモデルを活用したアセスメントの視点で見直す必要がある。

Ⅵ. まとめ

今回の研究をとおして以下のことが今後の課題である。

1. ICFモデルにしたがい情報を確実に収集すること

2. 活動制限をおこなっている要因を健康状態、心身機能・身体構造、環境因子、個人因子とのそれぞれの関係性で分析することを習慣化させること
3. 思考過程に十分な時間をとること
4. アセスメントに関する記録様式の整理をすること

Ⅶ. おわりに

生活機能が向上する介護を行うために、I C Fの視点によるアセスメントの有効性を再認識した。今後は、構成要素間の関連性などをさらに追求し、効果的な教育方法に取り組んでいきたい。

参考・引用文献

- 1) 世界保健機関（WHO） 「I C F 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」 中央法規 2003
- 2) 上田敏 「I C Fの理解と活用」 きょうされん 2005
- 3) 大川弥生 「よくする介護」を实践するためのI C Fの理解と活用 中央法規 2009
- 4) 川延宗之編 「介護教育方法論」 弘文堂 2008
- 5) 富山短期大学 「介護実習の手引き」 2014

本稿は、第21回日本介護福祉士教育学会における分科会発表「I C Fモデルとアセスメントの一考察」の内容もとに加筆、修正を行ったものである

(平成26年10月31日受付、平成26年11月14日受理)

表1 「情報収集シート」D表1

介護計画・介護過程		平成 年 月 日 () 年 組 番 氏名																																																							
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">健康状態</td> </tr> <tr> <td>障害高齢者の日常生活自立度</td> <td>正常・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者の日常生活自立度</td> <td>正常・I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M</td> </tr> <tr> <td>要介護状態区分</td> <td>要介護1, 要介護2, 要介護3, 要介護4, 要介護5</td> </tr> <tr> <td>現在行われている治療・処置</td> <td></td> </tr> </table> </div> <div style="width: 35%;"> <table border="1"> <tr> <td>既往歴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現在のバイタル</td> <td>体温 (℃) 脈拍 () 呼吸 () 血圧 (mmHg) 身長 (cm) 体重 (kg)</td> </tr> </table> </div> </div>				健康状態		障害高齢者の日常生活自立度	正常・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2	認知症高齢者の日常生活自立度	正常・I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M	要介護状態区分	要介護1, 要介護2, 要介護3, 要介護4, 要介護5	現在行われている治療・処置		既往歴		現在のバイタル	体温 (℃) 脈拍 () 呼吸 () 血圧 (mmHg) 身長 (cm) 体重 (kg)																																								
健康状態																																																									
障害高齢者の日常生活自立度	正常・J1・J2・A1・A2・B1・B2・C1・C2																																																								
認知症高齢者の日常生活自立度	正常・I・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IV・M																																																								
要介護状態区分	要介護1, 要介護2, 要介護3, 要介護4, 要介護5																																																								
現在行われている治療・処置																																																									
既往歴																																																									
現在のバイタル	体温 (℃) 脈拍 () 呼吸 () 血圧 (mmHg) 身長 (cm) 体重 (kg)																																																								
利用者を選んだ動機・理由																																																									
【生活機能】心身機能・身体構造・活動・参加 D2.3シート																																																									
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">環境因子</th> </tr> <tr><td>居室</td><td></td></tr> <tr><td>トイレ</td><td></td></tr> <tr><td>台所</td><td></td></tr> <tr><td>浴室</td><td></td></tr> <tr><td>ホール</td><td></td></tr> <tr><td>洗面所</td><td></td></tr> <tr><td>福祉用具</td><td></td></tr> <tr><td>その他の環境</td><td></td></tr> <tr><td>家族</td><td></td></tr> <tr><td>職員</td><td></td></tr> <tr><td>知人・入居者</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td>本人の思い</td><td></td></tr> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">促進因子・阻害因子</th> </tr> <tr> <td>(自室見取り図)</td> <td></td> </tr> </table> </div> </div>		環境因子		居室		トイレ		台所		浴室		ホール		洗面所		福祉用具		その他の環境		家族		職員		知人・入居者		その他		本人の思い		促進因子・阻害因子		(自室見取り図)		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">個人因子</th> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td>M.T.S. 年 月 生 (歳) 性別: 男・女</td> </tr> <tr> <td>生活歴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生活習慣・一日の過ごし方</td> <td>家族構成</td> </tr> <tr> <td>こだわり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>性格</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済状況</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入所理由</td> <td>入所年月日: 年 月</td> </tr> <tr> <td>本人の思い</td> <td></td> </tr> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">促進因子・阻害因子</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> </div>		個人因子		氏名	M.T.S. 年 月 生 (歳) 性別: 男・女	生活歴		生活習慣・一日の過ごし方	家族構成	こだわり		性格		経済状況		入所理由	入所年月日: 年 月	本人の思い		促進因子・阻害因子			
環境因子																																																									
居室																																																									
トイレ																																																									
台所																																																									
浴室																																																									
ホール																																																									
洗面所																																																									
福祉用具																																																									
その他の環境																																																									
家族																																																									
職員																																																									
知人・入居者																																																									
その他																																																									
本人の思い																																																									
促進因子・阻害因子																																																									
(自室見取り図)																																																									
個人因子																																																									
氏名	M.T.S. 年 月 生 (歳) 性別: 男・女																																																								
生活歴																																																									
生活習慣・一日の過ごし方	家族構成																																																								
こだわり																																																									
性格																																																									
経済状況																																																									
入所理由	入所年月日: 年 月																																																								
本人の思い																																																									
促進因子・阻害因子																																																									

富山短期大学福祉学科

表2 「情報収集シート」 D表2

介護計画・介護過程

平成 年 月 日 () 年 組 番 氏名

＜心身機能・身体構造＞		＜活 動＞		本人の思い	＜参加＞
視力		コミュニケーション			[意欲・生きがい]
聴力		移動・外出			
構音機能		排泄			[全咽]
運動機能		食事			
排泄機能		睡眠			[役割]
咀嚼・嚥下・食欲		入浴			
睡眠					
皮膚の状態・知覚					

富山短期大学福祉学科

表3 「情報収集シート」 D表3

介護計画・介護過程

平成 年 月 日 () 年 組 番 氏名

＜心身機能・身体構造＞		＜活 動＞		本人の思い	＜参加＞
口腔機能		整容・口腔ケア			[その他]
手指・上肢機能		身じたく・更衣			本人の思い
認知機能		家事			
本人の思い		趣味・余暇			
機能障害		活動制限			参加制約

指導者のコメント

実習指導者

印

表4 「アセスメントシート」E-1表

10の介護の視点

平成 年 月 日() 年 組 番 氏名

①自立(自律)した生活や自分らしい生活をするために必要な活動とは何か ②「していないこと」や、「できないこと」は何か、その理由は何か ③「していないこと」のうち「できる」ことはあるか ④「していないこと」を「できる」「する」ためには何が必要か ⑤「していること」は、利用者の要望とあっているか、さらに良い状態にするためには何が必要か

活動	情報の解釈・意味づけ・統合(D1、D2、D3表と関連)	活動	情報の解釈・意味づけ・統合(D1、D2、D3表と関連)
コミュニケーション		入浴	
移動(外出)		整容・口腔ケア	
排泄		身じたく・更衣	
食事		家事	
睡眠		趣味・余暇	

富山短期大学 福祉学科

表5 「アセスメントシート」E-2表

介護計画・介護過程

平成 年 月 日 () 年 組 番 氏名

主目標	
-----	--

項目		課題の発見		課題の分析		介護上の課題		援助目標			
分析過程		とりあげたい状態		⇒	課題を起している原因	⇒	課題となる理由	⇒	明確になった介護課題	⇒	援助目標の(具体的な課題)設定
要 点		①利用者の要求や訴え ②利用者の生活で気になること ③利用者が自分では処理できないこと			・何が原因でそのような状態になっているのだろうか。		・なぜそれを解決しなくてはならないのか。 ・このままにしておくと、何が予測されるか ・介護で解決できる課題か		・利用者個別の課題である。 ・介護が必要な課題である。 (実習記録F・介護課題の欄へ転記すること。) *介護課題は、課題の原因がわかるように記述すること。		・介護課題はどのように解決または緩和されるか。 ・到達可能で現実的な目標は何か。
10 の 介 護 の 視 点					・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・						

富山短期大学 福祉学科